

# 第 学年 国語科 ( ) 学習指導案 例

科目名を記入

日時: 令和〇年〇月〇日 第(〇)校時  
 場所: 〇〇高等学校 〇年〇組 〇〇教室  
 生徒: 〇名  
 指導者: 〇〇 〇〇

## 1. 単元名 (教材名)

\* 「〇〇をしよう」など、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが生徒に分かるように工夫して示す。

## 2. 単元の目標

- (1) ~できる。[知識及び技能]
- (2) ~できる。[思考力、判断力、表現力]
- (3) ~伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

\* 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。

\* [知識及び技能] と [思考力、判断力、表現力等] は、指導事項の語尾を「~できる」に変えて記述する。「学びに向かう力、人間性等」は当該科目の目標の「~関わろうとする」までを記述する。

\* [思考力、判断力、表現力等] はABCの領域の中から一つを焦点化し、その中の一つまたは二つの指導事項に絞って目標を設定する。

\* 末尾に (C「読むこと」(1)のイ) のようにどの指導事項に基づくものか書いておく。

## 3. 本単元における言語活動

\* 単元の目標を達成するために有効な言語活動を設定する。

例: 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。  
 (関連: [思考力、判断力、表現力等] A(2)エ)

## 4. 単元について

- (1) 生徒について (生徒観)

\* 本単元で指導する指導事項における生徒の状況を書く。

- (2) 教材について (教材観)

\* 当該教材を用いる理由を書く。

※教材観または指導観には、設定した言語活動にどのような特徴があり、付けたい資質・能力の育成のために、どう効果的かを記入すること。

- (3) 指導について (指導観)

\* 学習形態やワークシート等、具体的な指導上の工夫について書く。

## 5. 単元の評価規準 \* ← 2 単元の目標 に対応させて書く

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
*末尾は「~している。」	*末尾は「~している。」	*末尾は「~しようとしている。」

	<p>*文の始めに、領域名を示す。</p> <p>例 「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話し、相手の理解が得られるように表現を工夫している。</p>	<p>①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)</p> <p>②自らの学習の調整等(学習の見直しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)</p> <p>③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)</p> <p>③当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となるような具体的な言語活動)</p> <p>以上①～④の内容を全て含め作文する。</p>
--	---	---

6. 単元の指導と評価の計画 (全 時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準、評価方法等
1	*生徒の学習活動の流れを生徒の立場で簡潔に書く。	*指導者の立場で書く。	*どの場面で、何を基に評価するのかを書く。
3	<p>例</p> <p>○「相手の理解が得られるような表現の工夫」について、振り返りシートに記入する。</p>	<p>例</p> <p>・振り返りシートには、相手の理解を得るために考察したことと実際に理解が得られたかどうかということについて、目標に沿って振り返るよう促す。</p>	<p>例</p> <p>[主]① 「記述の分析」振り返りシート ・相手の理解が得られるよう表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整し、おすすめの本を紹介しようとしているかを分析する。</p>

7. 本時の指導 時/全 時間

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準、評価方法等 ○ Bと判断できる状況 ● Cと判断する状況の手立て
<p><b>*生徒に示す本時の目標を記載</b></p>		
<p><b>*生徒の立場で書く。</b></p>	<p><b>*指導者の立場で書く。</b></p>	<p><b>*例:[知・技]①</b>  <b>「記述の点検」 計画書</b>                      ○計画書に、話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、分かりやすさに配慮した表現などについて記入している。                      ●「分かりやすさ」について改めて確認した上で、計画書に意識する観点を盛り込んで再整理するよう助言する。</p> <p><b>*例:[思・判・表]①</b>  <b>「行動の分析」 発表の様子</b>                      ○話し言葉の特徴を踏まえて、相手の理解が得られるように表現を工夫して本を紹介している。                      ●練習や本番で記録したプレゼンテーションの動画を見返して改善すべき点を考えさせたり、他の生徒が自分の発表について記入した「表現の工夫」を読んだりして、プレゼンテーションの構成や工夫を再検討するよう助言する。</p>
<p>↓ 単位時間の中で、3観点全ての評価をするのではない。                      評価をする場面は単元を通して精選し、                      ↓ 単位時間に詰め込むことのないようにする。</p>		

**\*例〔主〕①**

**「記述の分析」 振り返りシート**

○相手の理解が得られるよう表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整し、おススメの本を紹介しようとしている。

●課題を解決する手立てを具体的に捉えることができるよう、練習の際の相互評価や他の生徒が記入した「表現の工夫」欄の記述内容を確認し自己の表現活動を改めて振り返るよう促すとともに、他者の発表から得た気づきを「分かりやすさ」の観点に照らして考察するように助言して「工夫しようとしたが十分ではなかったこと」として整理して振り返るよう指導する。

(3) 教材、ワークシート、板書計画、座席表 等

※参考になる資料等

◎『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 国語(令和3年8月)』

国立教育政策研究所

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820\\_hig\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_kokugo.pdf)

